



第66回学術集会報告

日本麻酔科学会第66回学術集会は、2019年5月30日～6月1日に、神戸ポートピアホテル、神戸国際会議場・展示場で開催されました。有料参加者は9,978名(会員9,172, 名誉会員51, 非会員755)、無料参加者は、約850名(国内海外招待者、医学生・研修医招待者等)と、たくさんの学会員の皆様に参加いただき、誠にありがとうございました。

学術集会という同じ時・同じ場所に人々が集う意味は、考え方の根底にせまる深い議論をすることにあると思います。私なりに35年近い一人の医師・麻酔科医としての経験も踏まえて考え、今回のテーマをProfessionalismとしました。激動する医療や麻酔科を取り巻く環境の変化の中で、我々麻酔科医は日々決断を迫られており、時に迷うこともあります。そんな時に、すべてを裏打ちする背骨ともいえるべき判断基準の立脚点が麻酔科医としてのprofessionalismにあるとの思いからです。今回の学術集会の開催に当たり、実行委員会に9領域のWGを設置し、一般演題採択と各領域に関連する旬な話題について提案いただきました。また、麻酔科学会の各委員会からの企画や、公募企画なども幅広く採用させていただきました。

会長企画では、初日にPatient Safety、2日目にonco-anesthesiology、3日目に、麻酔科医のマンパワーの問題について取り上げました。麻酔のプロとして、それらの課題にどう取り組んでいくか、考える端緒となったのであれば幸いです。その他、心臓、腎臓、肝臓、大量出血、敗血症、末梢神経ブロック、禁煙など様々な領域についても企画しました。さらに、AMEDや科学技術振興機構JSTの理事長に日本の医学研究・科学技術開発の現状と課題についてお話しいただき、我々の進むべき方向性について思いを新たにされた方も多いのではないかと思っております。また、専門領域外の企画として、笑いの現場から学ぶ「安全向上委員会」、「宇宙の果てはどうなっているのか」、「見たくないことを直視し来る震災で医療を持続する」なども、会場はほぼ満席でした。新企画として、日本麻酔科学会の各委員会活動を広報するパネルの展示やオープニングセレモニーのビデオ放映を行い、学会の活動に対する学会員の皆さんの理解を深めるのに少しは役立てたのではないかと考えております。

第64回時に始まったピッチコンテストは、公益社団法人として学会員に研究資金を提供することが問題との理由で、誠に残念ですが新規課題採用は中止となり、過去採用課題の成果発表を行っていただきました。大変中身の濃い発表が多くみられ、学術集会を軸に研究を進めるといふ当初の意図を少しは具現化できたのではないかと考えております。東アジア麻酔学会第7回大会も併催させていただきました。

今回の学術集会には一般演題として704題の応募をいただき、採択率は75.8%(昨年より+10%)でした。第60回大会時の1,497題が過去最多であり、その後減少傾向が続き、今回は半減しました。今後の学術集会のあり方として、大きな課題だと思われまます。

最後になりましたが、本会の企画運営にご協力いただいた会員諸先生方、委員会、領域別WGメンバー・サテライトメンバーの皆様、WG長の皆様に心より感謝申し上げます。おかげさまで、滞りなく会を進めることができました。誠にありがとうございました。



名古屋大学大学院医学系研究科
麻酔・蘇生学教授

西脇 公俊

第67回 学術集会会長挨拶

第67回日本麻酔科学会年次学術集会の開催にあたって

日本麻酔科学会第67回年次学術集会会長を務めます慶應義塾大学医学部麻酔学教室の森崎浩です。年次学術集会を開催させて頂くにあたりご挨拶申し上げます。

第67回年次学術集会は2020年6月4日(木曜)～6日(土曜)の3日間、神戸での開催を予定しています。申し上げるまでもなく、2020年は東京オリンピック・パラリンピック開催年となり、スポーツを通じた国際交流が全国各地において盛り上がるものと存じます。世界最高レベルのスポーツを目の当たりにして、我々が素晴らしいと感じる想像を超える技・精神力あるいはチームプレーは必ずしもスポーツに限定されたものではありません。専門職として日頃の研鑽を通じ、より質の高い医療を提供している麻酔科医にとっても極めて重要な3要素であると考えています。日常診療においては、金・銀・銅のメダルや順位を競う必要はないものの、我々麻酔科医も学術集会という研鑽の場において、これらの素養を研ぎ澄ます必要があることに違いはありません。

本学術集会のテーマを『近未来社会における麻酔科学 (Anesthesiology in Futuristic Society)』とさせて頂きました。昨今、関連領域医学や工学を含む周辺領域の著しい発展に伴う手術適応年齢の高齢化が一段と進み、全身麻酔を必要とする手術件数は増加し続けています。また医の根源でもある慢性痛の治療を必要とする患者数増加やより高度な集中治療による急性期重症患者の救命率向上等、我が国の麻酔科医が果たすべき役割は一段と拡大し、留まる様相を見せていません。一方、人工知能 (Artificial Intelligence) が人類の知能を超える転換点シンギュラリティとその後の世界の変化に対し、大きな期待と不安が世間では渦巻き始めています。医療界においてもビッグデータ解析や画像診断等に加え、例えば人工知能を搭載する全脳型あるいは特化型ロボット等の技術革新を“より安心して” “より安全に” 麻酔科医が担う医療に展開することも、日本麻酔科学会として真剣に取り組むべき時期に来ていると考えています。

現在、学術集会実行委員会において会員の皆様のご期待に応える企画を各領域で吟味し、年次学術集会の開催に向け鋭意準備を進めているところです。日常業務に多忙な日々をお過ごしのことと存じますが、来る2020年6月4日より3日間は神戸に集い、本学術集会での議論を通じて麻酔科医としての素養を大いに研ぎ澄まして頂ける機会となるよう祈念しています。

多くの皆様のご参加を心よりお待ちしております。



慶應義塾大学医学部麻酔学 教授

会長 森崎 浩

新理事長就任挨拶

東京歯科大学市川総合病院 小坂橋 俊哉

この度、社員総会において理事長に選出していただき、2年間務めることになりました。その重責に身が引き締まる思いです。

日本麻酔科学会が現在、直面している最も大きな課題は、厚労省が打ち出している将来にわたる必要医師数の見直し、およびそれに伴う麻酔科専攻医プログラム定員の14都道府県におけるシーリングです。厚労省は医師の地域偏在の解消、ならびに働き方改革を5年以内に達成する方針を固めています。この目的で麻酔科医の必要医師数を過小評価しており、これらのデータには反論をして参りましたが、継続して是正を求めて参ります。しかし、厚労省が推進している医師の地域偏在解消や働き方改革は避けられない方針であり、これからはその枠組みの中でいかに日本麻酔科学会に利する対応をするのかが問われるものと考えております。



二番目の課題は、看護師による術中特定行為パッケージ研修がいよいよ開始されることです。パッケージ研修は個々の特定行為の研修項目をパッケージ化して行うもので、日本麻酔科学会が研修プログラムのひな型を作成して全国の施設に配布し、各施設においてプログラム内容を修正して使用するようにすること、これらの事務処理等の機能、指定研修連絡会、フォローアップ機能を本学会事務局が担う仕組みであることを厚労省に提示しています。また、術中麻酔領域に加えて術前、術後も含む研修案を作成する予定です。

三番目の課題は、非常勤麻酔科医師に対する対応です。麻酔科医の基本は、言うまでもなく患者をはさんで外科系の医師と対等に意見交換し、安全で快適な医療を提供することです。麻酔科医の顧客は患者とともに外科系の医師です。昨今、外科系の医師から反感を買うような言動をする麻酔科医がいることがわかりました。お互いを尊重しあえるような手術環境の構築に努めて頂けますようお願い申し上げます。

これまでに申し上げて参りました諸課題ならびにその対応については2年前には全く表面化していませんでした。学術団体として学術、教育、安全など通常の業務以外にも課題が山積しています。会員の皆様のご理解、ご支援をお願い申し上げます。

新理事就任挨拶

常務理事 / 副理事長 / 総務委員会 委員長 / 周術期管理チーム委員長
群馬大学医学部附属病院 齋藤 繁

令和元年から2年間の総務担当理事を仰せつかりました。総務の名前のおり、学会の学術、教育、財務等の範疇に収まらない、あらゆる事案への対応を担当いたします。特に、医学界はもとより、社会全体に対して麻酔科医師の業務の重要性を啓蒙し、本学会ならびに会員ひとりひとりの立場を確立させることは最重要課題です。そうした活動が麻酔科の質的、量的拡充につながり、労働環境の整備へも波及します。各委員会と連携して若年医師への教育推進や女性医師の労働環境整備、真の働き方改革を推進してまいります。また、周術期管理チーム養成事業を安定的に展開し、周術期チーム医療の普及に努めてまいります。



倫理委員会 委員長 福井大学医学部附属病院 重見 研司

このたび、岐阜大学飯田先生の後任として、東海・北陸支部の代表理事に就任しました。当支部には、名古屋や金沢など大都市がありますが、麻酔科医は少なく、専門医認定機関や関係係機関へ正しい情報を伝える必要があると考えています。平行して、周術期管理チームの運営や、認定看護師の育成、麻酔の機械化の推進や簡便で安全な麻酔の開発など、様々な工夫について情報交換をさらに推進したいと思います。担当委員会は倫理委員会です。これは富山大学の山崎先生から引き継ぎました。診療も教育も研究もそれぞれ目的は利他だと思いますが、正義が複数存在しますからその調整は簡単ではありません。皆様のお力添えを何卒宜しくお願い致します。



常務理事 / 国際交流委員会 委員長 昭和大学病院 大嶽 浩司

このたび、常務理事ならびに国際交流委員長にご選任いただきましたこと感謝申し上げます。専門医制度や周辺環境が変化していく中、命の番人として患者に対して真摯に向き合う姿勢と麻酔科同志の意思の共有との2つは揺らいではならないと考えます。学会とは麻酔科医ひとりひとりが存分に活躍できるように環境を整えるための共同体です。今まで以上に会員に寄り添った学会運営をめざすべく尽力してまいります。このようにすればよりよい学会になるという皆様のご意見を会議などの議題に反映させていきたいと考えております。皆様のがびのびと診療を行える環境を作るために、これまで以上にご指導のほど、よろしくお願いいたします。



教育委員会 副委員長 / 利益相反委員会 委員長 宮崎大学医学部附属病院 恒吉 勇男

利益相反委員会委員長を拝命しました。利益相反とは、一方の利益にはなるが、他方へは不利益となる行為のことです。たとえば、ある企業から試薬や研究資金等の供与を受けたとしても、仮に提供企業に不利な結果であっても事実には忠実に報告するならば利益相反はあるが問題とはなりません。一方、事実を反して提供企業に有利に働くような報告を行うと違反と見なされます。日本麻酔科学会では研究の成果を学術集会で発表する場合、当該研究実施にかかわる利益相反を適切に開示することが義務付けられています。社会的観点から問題のある行動で人生を台無しにしないために、公正で中立な立場を貫きましょう。



麻酔博物館委員会 委員長 京都府立医科大学附属病院 伊吹 京秀

麻酔博物館委員会委員長に就任させていただきました。日本麻酔科学会は、公益社団法人に認定されており、麻酔博物館を通じて麻酔の重要性・歴史・バイオニア・未来の麻酔などを世に広めることは、公益性が高く“不特定多数の者の利益の増進に寄与する”事業として、重要であると考えます。また麻酔科医が、麻酔に関わる基礎・臨床医学が発展してきた背景、麻酔科医をめぐる社会的背景などの歴史を知る事により、流れが早く先の読めない時代において、未来を見通す洞察力が身につくと考えます。今後、リニューアル工事、国際学会の開催、10周年記念事業などを控え、精進して参る所存ですので、ご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



教育委員会 委員長 川崎医科大学附属病院 中塚 秀輝

この度、中国四国支部代表理事および教育委員会委員長を拝命いたしました。本年度の学会麻酔科専門医の更新より日本専門医機構の麻酔科領域専門医への移管が開始されます。また、厚生労働省および日本専門医機構から提示された2020年度専攻医登録のシーリングについての案は学会としても厳しいものを感じられます。この変革期に当たり、教育システムの充実が学会の未来を左右する重要な課題であります。円滑な制度の移行とともに一層の充実に貢献できるよう、会務に尽力したいと思います。さらに、地域医療におきましても中国四国支部の麻酔科関連領域の発展にも努力させていただきます。会員の皆様のご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。



安全委員会 委員長 弘前大学医学部附属病院 廣田 和美

患者安全に関する東京宣言に、「安全でない医療ケアや避けうる有害事象は、防ぎ得たはずの人々の大きな苦しみの原因や、財政的にも相当な負担になるとともに、医療制度や政府への信頼の失墜にもつながることから、世界的に医療提供体制に対する重大な挑戦で



あることと認識する。全ての医療段階、医療領域において、医療サービスを提供する基本要件として患者安全の促進と実行が必要であることを認識する。」とあります。「政府」を「日本麻酔科学会」、「全ての医療段階、医療領域」を「救急・集中治療、ペインクリニック・緩和医療も含めた全ての麻酔科診療領域」に置き換え、東京宣言の精神で、委員並びに部会員の皆さんと安全委員会の役割を果たして行きたいと思ひます。どうぞ宜しくお願い致します。

男女共同参画プロジェクト副委員長

聖隷横浜病院 木下 真弓



この度、理事、男女共同参画プロジェクト副委員長を拝命致しました木下真弓です。日本麻酔科学会は男女共同参画のポジティブアクションにより女性代議員 理事が選出されました。日本麻酔科学会の方針決定に際し女性の参画が進み、男女を問わず多様な人材が活躍できるように日本麻酔科学会の発展に微力ながら尽力していきたいと思ひます。どうぞ宜しくお願いいたします。

広報委員会 副委員長

福岡市立こども病院 水野 圭一郎



広報委員会の役割は、一般社会や医療界に向けた麻酔科学領域の専門家集団としての情報発信、学会運営に関する会員と執行部の双方向性の意思伝達、そして専門医制度や認定施設などの各種制度のわかりやすい解説と必要な手続きの支援、などが挙げられます。関連学術団体との連携強化や地方からの情報発信の活性化もはかり、柔軟かつ開かれた活動を目指します。本学会のwebsiteが会員に日常的に閲覧・活用されることを目指して、リニューアルされたwebsiteをさらにブラッシュアップしていきたいと思ひます。会員のみならず是非忌憚のないご意見をお寄せいただくと幸いです。どうぞ宜しくお願いいたします。

教育委員会 副委員長

神戸大学大学院医学研究科外科系講座麻酔科学分野 溝渕 知司



この度、支部代表理事(関西支部)および教育委員会副委員長を拝命いたしました。支部代表理事として、関西支部は会員も多く広域ですが、全国との連携を取りながら、日本麻酔科学会会員が携わる麻酔科及び麻酔科関連の国民への安全な医療提供のため様々な角度から貢献できればと考えています。また、教育委員会副委員長として、機構専門医制度へのスムーズな移行や、質

の高い麻酔科診療を提供できる麻酔科医教育システム構築、さらには麻酔科学の発展のため尽力したいと考えています。ご指導、ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

学術委員会 副委員長

岡山大学病院 森松 博史



この度日本麻酔科学会理事に就任しました、岡山大学麻酔科蘇生科の森松です。学術委員を務めさせていただくとともに、周術期管理チームテキスト作成、男女共同参画プロジェクト、周術期特定行為群研修企画部会などにも頑張っていきたいと思っております。昨今の臨床研究を取り巻く環境はかなり厳しくなっておりますが、こういう時代だからこそ、学会が学術団体として研究を推進する事が重要と思っております。微力ではございますが、会員の皆様と共に、学術団体としての麻酔科学会の使命を追求できればと思ひます。どうぞ宜しくお願いいたします。

安全委員会 副委員長

東北大学病院 山内 正憲



北海道・東北支部代表理事として、面積が広く麻酔科医密度の低い地区が落ちて活動できるように、情報の発信と受信に努めてまいります。執行部の一員としては主に安全委員会を担当いたします。国民が安心して麻酔関連医療を受けられるように、決めるべきことを決め、廣田委員長をサポートしながら自分に与えられた役割を果たす所存です。本学会の会員・社員としての目線も持って、皆様に学びながら尽力いたします。

監事

近畿大学 中尾 慎一



この度、監事を拝命いたしました、近畿大学の中尾慎一です。これまで関西地区支部長として、理事を2年間務めさせていただいた経験があります。今回は監事として、理事の方々との相互信頼の下、法人の財産および理事の業務執行を監督させていただくことになりました。日本麻酔科学会は、先人の方々の御努力により様々な面で大きな発展を遂げてきましたが、医療を取り巻く環境は日々厳しくなり、未だ多くの課題が山積しているようです。薄学非才、微力ではありますが、監事として麻酔科学会の更なる発展に少しでも寄与できるよう尽力したいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

在任理事ご紹介

常務理事・ 副理事長・事務局長	常務理事・ 財務委員会 委員長	常務理事・ 関連領域検討委員会 委員長	関連領域検討委員会 副委員長	男女共同参画 プロジェクト委員長	周術期管理チーム 委員会副委員長	総務委員会 副委員長
上村 裕一	足立 健彦	小澤 章子	井関 雅子	近江 禎子	大瀧 千代	大西 佳彦
広報委員長	学術委員長	学術委員会 副委員長	安全委員会 副委員長	監事	監事(旧支部長・ 利益相反委員長)	
川口 昌彦	川真田 樹人	小森 万希子	横田 美幸	福田 和彦	山本 達郎	

新代議員紹介

2019年5月29日、第9回定時社員総会において、下記の338名が2019年～2020年度公益社団法人日本麻酔科学会代議員に就任致しました。尚、2019年度より新たに就任した98名については、所属支部毎に顔写真を掲載しております。【代議員：338名】

- | | | | | | | | | | | | | | |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|
| 青山 和義 | 赤田 信二 | 赤塚 正文 | 赤松 繁 | 秋吉浩三郎 | 浅野 市子 | 麻生 知寿 | 足立 健彦 | 天谷 文昌 | 新井多佳子 | 荒川 穰二 | 飯田 宏樹 | 五十嵐あゆ子 | 五十嵐 孝 |
| 池田 栄浩 | 池田 健彦 | 石川 明子 | 出田真一郎 | 泉 薫 | 井関 雅子 | 市川 敬太 | 伊藤 健二 | 伊藤 伸子 | 伊藤 洋 | 伊東 義忠 | 稲垣 喜三 | 伊奈川 岳 | 稲田 英一 |

井上 聡己	井上 莊一郎	猪股 伸一	伊吹 京秀	伊良波 浩	岩崎 衣津	岩崎 達雄	上野 博司	上山 博史	内田 整	内田 寛治	内田篤治郎	内田 博	内野 博之
内本 亮吾	内山 昭則	宇野 太啓	宇野 洋史	梅垣 修	江木 盛時	枝長 充隆	逢坂 佳宗	近江 禎子	大内 貴志	大下 恭子	太田宗一郎	大高 公成	大瀧 千代
大嶽 浩司	大西 佳彦	大畑めぐみ	岡崎 敦	岡崎 純子	岡本 浩嗣	小川 真生	荻野 祐一	奥田 泰久	奥富 俊之	小倉 信	尾崎 眞	小澤 章子	小田 裕
落合 亮一	小原 伸樹	甲斐 哲也	香川 哲郎	垣花 学	角山 正博	片桐美和子	片山 浩	加藤 孝澄	加藤 道久	加藤 里絵	角谷 仁司	株丹 浩二	上林 卓彦
紙谷 義孝	亀井 政孝	辛島 裕士	狩谷 伸享	川上 裕理	川口 昌彦	川越いづみ	川崎 貴士	川前 金幸	川股 知之	川真田樹人	神田 恵	上村 裕一	菊谷 健彦
岸川 洋昭	木田 景子	北 貴志	北浦 道夫	北川 裕利	北口 勝康	北野 敬明	北村 晶	鬼頭 剛	木下 真弓	金 徹	木村 哲	木村 信行	櫛方 哲也
国沢 卓之	久米 正記	倉迫 敏明	倉田 二郎	倉橋 清泰	黒澤 伸	小泉有美馨	小坂橋俊哉	小出 康弘	河野 昌史	幸村 英文	小嶋亜希子	小杉志都子	小竹 良文
後藤 隆久	小林 佳郎	小森万希子	小山 薫	近藤 一郎	近藤 修	近藤 竜也	齋藤 繁	齊藤 達志	齊藤 仁志	齊藤 洋司	酒井 陽子	坂口 嘉郎	坂本 篤裕
坂本 三樹	笹川 智貴	定永 道明	佐藤 智行	佐藤 祐子	佐藤 善一	讚岐美智義	佐和 貞治	澤井 俊幸	澤村 成史	志賀 達哉	重松次郎昌幸	重見 研司	設楽 敏朗
篠塚 典弘	柴田伊津子	柴田 康之	渋谷 博美	島崎 睦久	清水 淳	清水 斎	下田 栄彦	生野慎二郎	白石 義人	白神豪太郎	進藤 一男	杉浦 健之	杉田 道子
杉本 清治	杉森 邦夫	杉山 和英	鈴木 昭広	鈴木 健二	鈴木 孝浩	鈴木 健雄	鈴木 武志	鈴木 宏昌	鈴木 康之	角倉 弘行	瀬川 一	関山 裕詩	瀬戸口秀一
芹田 良平	其田 一	祖父江和哉	田家 諭	多賀紀一郎	高石 和	田垣内祐吾	高雄由美子	高岡 誠司	高木 俊介	高木 敏行	高崎 康史	高澤 知規	高田 幸治
高田 基志	鷹取 誠	高橋 完	高橋 麗子	瀧 賢一郎	田北 彰	瀧田 恒一	田口奈津子	竹内 護	武田 吉正	田代 雅文	多田 文彦	多田羅恒雄	田中 克哉
田中 聡	田中 裕之	田中 誠	田中 源重	田中 洋一	田辺久美子	田辺瀨良美	谷上 博信	谷口 巧	谷口 正彦	玉井 久義	杖下 隆哉	辻田 美紀	辻田 美紀
堤 保夫	恒吉 勇男	角舘 浩央	坪内 宏樹	戸田雄一郎	戸部 賢	富岡 俊也	富田 行成	富安 志郎	外山 裕章	中尾 慎一	中川 博美	長坂 浩	長坂 浩
長坂 安子	中島 芳樹	長瀬 清	長田 理	中塚 逸央	中塚 秀輝	中根 正樹	中村 信一	中村 達雄	中山 英人	成田 昌広	成松 紀子	成瀬 睦子	名和由布子
新山 幸俊	仁熊 敬枝	西川 精宣	西田 修	西田 朋代	西部 伸一	西脇 公俊	新田 俊一	野村 実	萩平 哲	橋口さおり	橋口 光子	長谷川麻衣子	馬場 洋
濱田 宏	原 哲也	原武 義和	東 美木子	東みどり子	尾頭希代子	尾藤 博保	平井 裕康	平川奈緒美	平木 照之	廣瀬 宗孝	廣田 和美	深田 智子	深田 祐作
福田 和彦	福田 秀樹	福積みどり	藤野 裕士	藤村 直幸	藤本 一弘	藤原 亜紀	藤原 祥裕	淵上 竜也	保利 陽子	堀口 剛	前川 拓治	間嶋 望	増田 美奈
松川 隆	松田 知之	松永 明	松本 重清	松本 晶平	松本美志也	間宮 敬子	丸山 一男	水野圭一郎	水本 一弘	溝渕 知司	南 敏明	宮田 裕史	村上 衛
室園美智博	望月 利昭	森 隆	森 美也子	森崎 浩	森松 博史	森本 裕二	森山 潔	諸岡 浩明	安田 善一	山内 正憲	山浦 健	山藤 道明	山口 浩史
山崎 光章	山田 圭輔	山田 徳洪	山田 芳嗣	山本 達郎	山本 洋子	湯浅 晴之	湯浅 晴之	横山 正尚	吉川 範子	吉田 仁	萬 知子	萬家 俊博	若崎るみ枝
輪嶋善一郎	渡辺 恵介												

北海道 東北											
				関東 甲信越							
				東京							
									東海 北陸		
								関西			
											中国 四国
									九州		

2019年度 学会賞受賞者

山村記念賞の秘訣は「やめないこと」にあり

東京慈恵会医科大学麻酔科学講座 倉田 二郎

2019年度山村記念賞を頂き、この上なく光栄に存じます。ご評価下さったJSA会員の皆様と、私を研究の道に導きご支援下さった皆様に、ここで改めて感謝を申し上げます。

京都大学大学院で故森健次郎教授に麻酔薬中枢神経作用の研究を指導され、「魂を込めるのはこれから」と火を付けられました。「麻酔が意識をなくすのはなぜか」という疑問に取りつかれた私をピッツバーグ大学のLeonard L. Firestone教授が招いて下さり、意識と痛みの機能的磁気共鳴画像法(fMRI)研究を始めました。帰国後なお研究を続けたい私を東京女子医大の尾崎真教授が迎えて下さり、福島県立医科大学整形外科学講座の紺野慎一教授が慢性腰痛fMRI研究の指導者として招いて下さいました。帝京大学の故森田茂徳教授が痛み研究の秘密兵器PATHWAYを購入して下さい、澤村成史教授がこれを長期間にわたり快く貸与して下さいました。京都大学で麻酔の臨床を更に厳しくご指導頂いたあと、東京医科歯科大学で横田浩史名誉教授に迎えて頂き、ペインクリニックの臨床を磨きながら、多くの意欲あふれる大学院生と学生達に出会いました。

このようにして、20年以上にわたり痛みのヒト脳画像研究を続ける幸運に恵まれました。この間に、痛み関連脳活動の抑制性要素を説明するモデルを提唱しました。慢性腰痛症、線維筋痛症などの慢性痛患者では、脳の痛み認知回路が機能・解剖共に変容し、下行性疼痛修飾系や報酬系の減弱という仮説により説明できることを示しました。

ある先輩受賞者の「山村記念賞の秘訣は研究をやめないこと」との忠告を、そのまま若い研究者の皆様引き継ぎたいと思います。

「山村記念賞を受賞して」

京都府立医科大学 小川 覚

この度は第38回日本麻酔科学会山村記念賞という名誉ある賞を賜り、大変光栄であると思っております。選考委員を始めとした学会関係者の皆様、推薦いただきました京都府立医科大学麻酔科学教室の佐和貞治教授、そしてこれまで支えて下さったすべての皆様に心より感謝を申し上げます。

受賞対象の研究テーマは“凝固障害患者における周術期止血戦略”です。出血の継続や体外循環の使用は、高度の血液希釈を介することで生体に止血障害を引き起こします。希釈性凝固障害における止血戦略を構築する過程では、欠乏因子の同定とその程度を評価すること、標的因子を効率的に補充することが重要な要素として位置づけられます。これまで、研究グループではヒトおよび動物検体を持ちいて血栓形成機序を明らかとする過程で、トロンボエラストメトリーやフローチャンバー装置の臨床有用性を報告してきました。また、従来の血漿検体による凝固検査を全血測定系へ応用する共同開発を国内メーカーと行い、その臨床普及を促進させました。さらには、先天性出血患者にもちいられる幾つかの凝固因子濃縮製剤を後天性出血患者へ適用することで、あらたな治療法の提案をおこなってまいりました。これらのことは、大量出血患者における遅滞ない止血介入の実現と止血戦略の構築に寄与したと考えております。

近世における麻酔管理と外科手技の進歩により周術期管理の安全性は飛躍的に向上いたしました。その結果、現在では大量出血が周術期死亡の多数を占めるに至っています。より良い周術期管理の観点から、同分野におけるさらなる研究の発展が急務であると考えます。研究は“学而不思則罔”の一言に尽きますが、今回の受賞を糧にして、学会の発展に寄与するより応用性のある研究成果を目指してまいり所存です。今後ともご指導のほどをよろしくお願い申し上げます。

松木賞を受賞して。

我孫子東邦病院 菊地 博達

この度松木賞を頂き、大変光栄に存じます。今までの成果への果実ではなく、麻酔の歴史を継続する出発点にたどり着いていると評価して頂いたと認識し、今後も研究

に邁進する所存です。

生まれてこの方全く賞とは縁が無く、ただただ好きなことしかやってきませんでした。医学部卒業後、多くの先生から「何がしたいの？」と質問を受け続けてきました。理学部卒の先生達から、マイケル・ファラデーの「ろうそくの科学(The Chemistry of a Candle)」を読みましたかと問われたことが印象に残っています。自分たちが科学を行えるのは、それを許容してくれている市民のお陰であり、そのために自分の専門分野を理解してもらうために、あなたは平易な言葉で説明しなさいと示唆しています。この本から啓発の必要性・重要性を感じ取りました。

1978年留学した地で「ここでしか出来ない事」として、私は麻酔の歴史の探索を始めました。

大学を停年退職後、本格的に麻酔の歴史の勉強を始めました。書籍、論文、資料集めの旅行、さらにインターネットからの情報収集を行たわけです。松木明知先生からは種々のご指導を受け、改めて「麻酔の歴史の研究は科学である」と確信し、もっと早くからお知り合いになっておくべきだったと後悔しております。また、故山村秀夫先生の「そう、麻酔の歴史を勉強する事は、麻酔科医のアイデンティティを認識する事ですネ。」と声をかけて頂いたことも、心の励みになりました。

日々使用している機器、道具、薬物、モニターなどは先人の研究の成果です。その果実が出来た物語に興味はありませんか？それを知る事で、患者さんの疑問に答えられ、患者さんからは全く違った眼で見られます。麻酔科医として、麻酔科学史にも頭を突っ込んで、一緒に研究してみませんか？

若手奨励賞(基礎)を受賞して

関西医科大学総合医療センター 角 千里

この度は名誉ある若手奨励賞を受賞させていただき、大変光栄に存じます。今回、受賞の対象となった論文は『Propofol induces a metabolic switch to glycolysis and cell death in a mitochondrial electron transport chain-dependent manner. (PLoS One. 2018; 13:e0192796)』です。未だ発症機序が明らかでないプロポフォール注入症候群の病態を培養細胞で再現することを試み、プロポフォールがミトコンドリアの電子伝達系を抑制し、代謝を嫌気性にシフトさせるとともに活性酸素産生を増加させることにより細胞障害作用をもたらすことを明らかにしました。

本研究は、大学院生として学ばせていただいた当大学附属生命医学研究所侵襲反応制御部門の研究テーマの一つであるhypoxia-inducible factorに関する研究の一環として行いました。今回の受賞に恥じぬよう、今後も臨床・研究に日々精進したいと存じます。

最後になりましたが、本研究にあたり終始ご指導いただきました関西医科大学附属生命医学研究所 侵襲反応制御部門 広田 喜一学長特命教授、および大学院での研究の機会を与えてくださいました関西医科大学麻酔科学講座 上林 卓彦教授をはじめ教室員の皆様に心から感謝申し上げます。

若手奨励賞(臨床)を受賞して

京都中部総合医療センター 向井 信弘

この度は名誉ある若手奨励賞を賜り、大変光栄に存じます。受賞の対象となったのは、「Changes in MicroRNA Expression Level of Circulating Platelets Contribute to Platelet Defect After Cardiopulmonary Bypass(Crit Care Med 2018; 46:e761-e767)」という論文で、次世代シーケンサー(NGS)を用いた解析を元に人工心肺に起因する血小板機能低下症の詳細な分子生物学的メカニズムの一端を明らかにしました。

この研究は、私が大学院で研究を始める際に新規導入されたNGSを用いて始めたものです。当時はまだ手順の一部自動化を可能とする装置はなく、不慣れであった私にはハンドリングの難易度が高すぎて数多くの失敗をしました。しかし、共に実験・指導して下さった先生方の存在があったからこそ、困難に負けず結果を残すことができたと感じています。この原稿が掲載される頃には海外に研究留学中かと思いますが、この受賞を励みに引き続き精進させていただく所存です。

最後になりましたが、本研究にあたり共に実験・ご指導いただきましたニューヨーク市立大学分子生物学部門 中山力恒先生、多大なるご指導をいただきました関西医科大学麻酔科学講座 中嶋康文診療教授、およびこのような研究の機会を与えてくださいました京都府立医科大学麻酔科学教室 佐和貞治教授をはじめ教室員の皆様に感謝申し上げます。

第66回学術集会 最優秀演題

第66回学術集会 最優秀演題が下記の通り決定いたしました。

演題番号	領域	タイトル	演者	所属
Q-AB1-6	循環 (基礎)	ALDH2*2/*2 遺伝子多型保持者におけるニトログリセリン持続投与時の血管内皮機能低下にケルセチンの併用が及ぼす影響	吉原 達也	医療法人相生会 福岡みらい病院 / 九州大学大学院医学研究院臨床薬理学
Q-AB2-4	循環 (臨床)	Error Grid 解析法による非観血的血圧と観血的血圧の比較	内本 明宏	大阪市立大学大学院医学研究科
Q-CD1-6	呼吸	マウス用声門上気管挿管補助器具の開発	西野 卓	国際医療福祉大学 市川病院
Q-EF1-2	神経 (基礎)	幼仔期の麻酔薬ミダゾラム暴露による認知機能低下とその分子メカニズムの解明	土井 浩義	九州大学大学院医学研究院 麻酔・蘇生学 / 九州大学大学院医学研究院 基盤幹細胞学
Q-EF2-2	神経 (臨床)	全身麻酔下の手術における術前心理状態と術中侵害受容刺激反応の関係	竹中 志穂	兵庫医科大学 / 福山市民病院
Q-GHA1-2	小児	小児における頸部伸展時のカフ位置を考慮した気管内挿管	水山 有紀	JCHO九州病院
Q-GHB1-1	産科	帝王切開術中の母体体温と臍帯動脈血ガス pH の関連	鈴木 怜夢	聖路加国際病院 麻酔科
Q-IJ1-2	ペイン緩和・局所麻酔 (基礎)	炎症性痛モデルにおける機械性痛覚過敏は Tmem45b によって維持される	谷奥 匡	和歌山県立医科大学麻酔科学教室
Q-IJ2-1	ペイン緩和・局所麻酔 (臨床)	胸腔鏡下肺葉切除術における胸部傍脊椎神経ブロックの自動間欠注入法と持続注入法の術後鎮痛および麻酔効果範囲の違いに関する前向きランダム化比較研究	武田 泰子	愛媛県立中央病院
Q-KL1-5	救急・ICU	Toll like receptor 4 signal 特異的阻害剤、TAK-242 はマウスにおいて敗血症誘発性骨格筋萎縮を改善する	大野 雄康	福島県立医科大学 医学部病態制御薬理医学講座 / 福島県立医科大学 救命救急センター / 太田西ノ内病院麻酔科
Q-MN1-1	麻酔科関連 1 (基礎)	慢性高血糖マウスにおける血糖介入期間が好中球機能に与える影響	藤本 大地	神戸大学医学部附属病院
Q-MN2-3	麻酔科関連 1 (臨床)	大腿骨近位部骨折患者の術前状態最適化により予後は改善する	植木 正明	西脇市立西脇病院
Q-OP1-2	麻酔科関連 2	悪性高熱症の原因遺伝子スクリーニング	神崎 理英子	広島大学病院 麻酔科
Q-QR1-2	麻酔全般	当施設 12 年間における全身麻酔中のアナフィラキシーの検討	天野 靖大	名古屋大学医学部附属病院

第66回学術集会運営報告 (大会長、学術委員会より)

学術集会運営にあたり、色々と行き届かず皆様にご不便をおかけしたことをお詫びいたします。

アンケート等による皆様のご意見を参考に、今後の運営に活かし、改善してまいります。会員の皆様には運営にも関わっていただく場合も多々あり、今一度、皆様にも学術集会への参加の姿勢についてお考えいただきたく、今回の事例について以下にまとめてご紹介致します。

対象者	問題概要	詳細
参加者全般	予約の無断キャンセル	開催前には席数不足などの運営に対するクレームや意見が多く寄せられたが、一方で当日は無断キャンセル等が多く、予約上は満席であっても、受講率が70%以下に留まった会場もあった。当日も空席確認が出来るシステムが利用できることをプログラム集や参加案内で公開しており、この仕組みを活用して頂きたい。
参加者全般	端末機器の紛失	アナライザー・同通レシーバーが返却されず、講演会場でスライドで返却を呼びかけた。会期後に別会場の椅子の間隙から発見された端末もあった。
参加者全般	落とし物の多発	落とし物として、特に財布が目立った。その他、クレジットカード、鍵などの貴重品も多くあった。
会員	会場スタッフへの暴力・暴言	誤ってリフレッシュャーを当日購入し、会場前で別の講習会を購入されていることを説明したが、本来希望した講習会は満席で入れないとわかると納得せず、操作ミスではないと主張し、運営スタッフへ再三確認と希望の講習会への出席を求めた。
会員	会場スタッフへの暴力・暴言	リフレッシュャーコース終了後、会場内に残っていた参加者へ、退室記録が必要なため退室を運営スタッフが促したところ、退室を拒み、スタッフに対して「いつ出ていこうが俺の自由だ」と怒鳴り居座られた後、スタッフの名前を求められた。その後、スタッフが会員の名前を確認すると拒否し退室した。
会員	会場スタッフへの暴力・暴言	運営本部宛に、自身の専門医資格更新のために学会参加が必要かどうか、電話問い合わせをした会員に対し、運営スタッフが「土曜日は学会事務局が休業日のため回答が困難であり、週明けに再度問い合わせをするよう」伝えたところ、「そんなことも回答できないのか。電話内容を録音して動画サイトで公開してもいいのか。」と怒鳴り、脅迫した。その後、日本麻酔科学会事務局員が対応し、改めて週明けに学会へ問い合わせるよう伝えたところ、収束した。
会員	会場スタッフへの暴力・暴言	ある共催セミナーを聴講したい会員が事前予約をしていなかった為、共催社へ確認し、展示ブースで企業取り置き分のチケットを配布している旨を運営スタッフがお知らせしたところ、セミナー入場時に、スタッフに対して、「あんなところまで取りに行かせて！」と激高し、企業取り置き用のチケットを投げつけた。
ポスター発表者	ポスターの放置	発表後ポスター掲示したまま放置される演題が多く、スタッフによりセッション終了後に撤去した。

事前予約の必要な講習等については、約8割を事前に販売しました。事前予約開始早々にシステム障害が発生し、システムに繋がりにくい状況が発生し、皆様にご不便をおかけいたしました。また予約者からは、早々に定員に達して申し込めない、先着順以外の受付方法を求める、当日販売席数を公開して欲しい等のご意見がございました。一方で、実際の利用率、受講実態は右記の通りでした。予約方法等については今後も改善を検討してまいります。第66回会期中はどの講習会も当日受付が可能であり、当日の申込みが十分活用されたとは思えない実態もありました。今後は当日予約が可能(専門医機構認定の共通・領域講習)講習につきましては、空席を確認のうえ、お申込みをご活用ください。プログラムや申込み可能数については次年度以降も引き続き、今年度の実績に基づき検討を行ってまいります。

託児所利用状況

	5月30日	5月31日	6月1日
予約可能枠	50	50	50
予約数	67	84	75
実利用者数	38	41	41
キャンセル (期限内 5/24 まで)	25	36	31
キャンセル (5/24 ~ 当日)	4	7	3

医学生・臨床研修医 (初期) 招待企画

	5月31日
申込数	511
実来場者数	492 (96.3%)
当日・無断キャンセル	19 (3.7%)

専門医共通講習 (K)・麻酔科領域講習 (R) 空席率と予約率

	平均受講者数 / 平均定員数	平均空席率	予約率 (参考)
専門医共通講習 (K)	606.3 / 742.9	18.4%	100.0%
麻酔科領域講習 (R)	328.0 / 488.4	32.8%	86.6%

麻酔科領域講習 (R) 開催日・時間帯別 (参考)

開催日・時間帯	平均空席率	予約率 (参考)
5月30日 (午後)	35.2%	79.5%
5月31日 (午前)	36.0%	88.6%
5月31日 (午後)	35.8%	80/9%
6月1日 (午前)	24.3%	99.9%
6月1日 (午後)	27.5%	96.4%

学会賞募集について

学術委員会

(公社)日本麻酔科学会の学会賞を募集しております。各賞の応募要項をご確認の上ご応募ください。多くのご応募をお待ちしております。募集要項等、詳細は学会HPをご覧ください。

	対象	応募締切日
山村記念賞	日本麻酔科学会の最高の賞として最も優秀な業績をあげた会員に授与する	2019年10月18日(金)必着
青洲賞	日本麻酔科学会において最も優秀な臨床研究業績をあげた会員に授与する	2019年10月18日(金)必着
松木賞	麻酔科学史及び関連した医学史に関して、優れた研究業績をあげた個人または団体に対し授与する	2019年10月18日(金)必着
若手奨励賞	日本麻酔科学会において最も優秀な研究論文を発表した会員に授与する	2020年1月20日(月)必着
社会賞	麻酔科学のためのみならず広く社会に貢献した個人あるいは団体に対する賞とする	2019年11月20日(水)必着

2019年度支部学術集会 開催日程

会期	会議名	会長	所属	会場
2019年 9月14日(土)	北海道・東北支部第9回学術集会	川前 金幸	山形大学医学部麻酔科学講座	仙台国際センター
2019年 9月 7日(土)	関東甲信越・東京支部第59回合同学術集会	小森万希子	東京女子医科大学 東医療センター	京王プラザホテル新宿
2019年 9月 7日(土)	東海・北陸支部第17回学術集会	藤原 祥裕	愛知医科大学医学部 麻酔科学講座	名古屋コンベンションホール
2019年 9月14日(土)	第65回関西支部学術集会	上山 博史	関西労災病院	大阪国際会議場(グランキューブ大阪)
2019年 9月 7日(土)	中国・四国支部第56回学術集会	齊藤 洋司	島根大学医学部附属病院	くにびきメッセ(島根県立産業交流会館)
2019年 9月14日(土)	九州麻酔科学会第57回大会	山浦 健	九州大学病院	アクロス福岡

周術期管理チーム委員より

2014年度より開始した周術期管理チーム認定制度について、2014年度より看護師認定、2016年度薬剤師、2017年度臨床工学技師と職種毎にそれぞれ認定制度を開始しております。資格要件、申請方法等については周術期管理チーム認定制度HPよりご確認賜りますよう、関係者にご周知下さい。

<http://perioperative-management.jp>

「周術期管理チーム2014年度認定試験問題 解説集」、「周術期管理チーム2015年度認定試験問題 解説集」、「周術期管理チーム2016年度認定試験問題 解説集」、「周術期管理チーム2017年度認定試験問題 解説集」、「周術期管理チーム2018年度認定試験問題解説集」、「周術期管理チームテキスト第3版」はKaLib Store、書店でお買い求めいただけます。

第66回学術集会 麻酔博物館特別展示報告

麻酔博物館委員会 委員 牧野 洋

第66回学術集会開催中の5月30日(木)～6月1日(土)の3日間、麻酔博物館において麻酔博物館出張展示を開催いたしました。今回は、『気化器の歴史』をテーマとしたパネル及び物品展示を中心に、普段は収蔵庫に保管されている麻酔器を一斉に展示致しました。また、常設展示においては、新設された華岡青洲、パルスオキシメーター、セボフルランの各コーナーをご覧になっていただけたかと存じます。

当日、会場には267名の皆様にお越しいただきました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。また、ご協力いただいたアンケートを通じて数多くのご意見を頂戴することができました。今後の博物館運営に生かしていきたいと思っております。

次回の第67回学術集会も神戸市での開催となり、麻酔博物館にて特別展示を行う予定ですが、また今年とは異なる展示内容をご用意させていただきますので、来年も是非麻酔博物館にご来場いただけますと幸いです。

2019年度 第58回麻酔科専門医認定試験について

第58回麻酔科専門医認定試験についてお知らせいたします。

筆記試験

試験日：2019年9月29日(日)
試験会場：TOC有明(東京会場)・
神戸ポートピアホテル(神戸会場)

口頭・実技試験

試験日：2019年10月4日(金)、10月5日(土)、10月6日(日)
試験会場：神戸ポートピアホテル

*筆記試験は2会場(東京会場・神戸会場)、口頭・実技試験は1会場(神戸会場のみ)で実施します。

*試験範囲は、「麻酔科医のための教育ガイドライン改訂第3版」の内容です。ガイドラインは学会ホームページの「指針・ガイドライン」のページに掲載しておりますのでご確認ください。

*過去問題について
筆記試験について

…………… 克誠堂出版「問題解説集」を参考ください
口頭・実技試験、専門医試験講評について

…………… 学会HPに掲載

※実技試験は試験内容のテーマのみ公表

【HP掲載場所】

学会HP「マイページ」ログイン→「メニュー」→「各種認定情報・資格申請」→「専門医試験(過去問)」

各種認定の更新申請について

認定指導医・機構専門医・麻酔科認定医の更新申請を、Web申請は9月2日(月)～10月21日(月)迄、書類提出は10月31日(木)【消印有効】で受け付けます。今年度更新が必要な方には、事務局より更新申請案内をご登録メールアドレスに送付しておりますので、必要書類のご準備をお願いいたします。なお、認定指導医については今年度から設置された資格のため、全て新規申請となります。詳細はホームページをご確認ください。

申請の際には下記の点にご注意ください。

*詳細は、学会ホームページの医療関係者の皆様、各種認定情報・資格申請をご確認ください。

*事務局への申請書類送付の際には、簡易書留あるいは宅配便をお使い下さい。

*職務経歴書・麻酔経歴書の書類不備(署名・押印の不足)は、施設の統廃合以外の理由では認められません。お早めに申請書類のご準備をお願いいたします。

◆審査料について

- ・認定指導医：20,000円(税別)
- ・機構専門医：30,000円(税別)
- ・認定医：10,000円(税別)
- ・認定病院：10,000円(税別)

※一度、お支払いいただきました審査料はいかなる理由があっても返金できませんので、審査料をお支払いされる前に、必ず申請条件をご確認ください。

また、今年度更新申請が必要な麻酔科認定病院につきましては、8月に更新申請案内をお送りしております。代表専門医の先生方におかれましては、9月2日(月)～10月31日(木)の間にWeb申請をお願いいたします。



北から南から

麻酔科医＝外国人？

東京慈恵会医科大学附属第三病院麻酔科 **ハシチウオヴィッチ トマシュ**

「いいんじゃない。日本語もそれほど求められないし」と先輩は僕の麻酔科選択に賛成した。「患者と話さなくていいから麻酔科を選んだ」と言う麻酔科医にも何人か会った。

だが、本当に麻酔科にはコミュニケーション力が必要ないのだろうか？

確かに、術中はモニターを通して患者と「コミュニケーション」し、それ以外の会話は「赤4単位」のような決まり文句に収まる。時には、集中が緩んだ外科医が同期の噂話をし、外回りが「次の抗生剤の時間です」と指摘するのに受け答えするぐらいのミニトークの技を身につけることも可能だろう。会話を最低限に抑えたらモニターで囲まれたハブに引きこもってれば良い。適応障害か？はたまたプロフェッショナルリズムか？

ただ、このモデルは、今はやりの患者の安全に必要なノンテクニカルスキルにどうあてはめられるのか。急性疼痛管理チーム、緩和ケア、ICUチームのメンバー、ペインクリニックのチームリーダーにふさわしいと言えるのか。「麻酔科はみんな会話ができず、言葉のわからない外国人みたいなものだ」と我々麻酔科医は開き直り、患者に諦めるよう求める権利があるのか。

手術そのものより、麻酔に恐怖を覚え、怯える患者は少なくない。恐怖、痛み、手術と入院に伴う生活の変化など、すべてにおいて、患者に対する共感から生まれるサポートが麻酔科医には求められている。

継続的なものではないにせよ、麻酔による合併症の説明をしながらもちょっとした「ひとこと」の支え。このようなコミュニケーション力は、麻酔科医の価値で、AI技術が取って代わることのできない能力でもある。

そこで求められるコミュニケーション力はただの表面的な会話上手のレベルではない。中身があって初めて意味を成す。その中身は自分の経験や悩み、人の辛さを理解しようとする努力から作られる。

「医者は何よりもまず深い人間でなくてはならない」とポーランドの大学でよく言われた。日本では、そのような話をあまり耳にしない。

麻酔科医の仕事は、機械だらけの手術室と患者の気持ちの溝を埋めることではないだろうか。それを放棄するのなら、法廷でお世話になるか、技術革新が進むなか、埋没していくしかない。

中央部門で履くべき靴は？

福島県立医科大学 麻酔科学講座 **箱崎 貴大**

私は靴が好きだ。靴が好きと言っても、いろいろな「好き」がある。機能性を求めたり、デザイン性を求めたりいろいろあるが、私は伝統的な革靴の美しさが大好きだ。フィッティングが適正な革靴は外見が美しい上に、痛みもなく疲れも感じにくく、しかも蒸れない最高のものだと思っている。しかし、私は営業職のサラリーマンではなく、病院の奥の方で働く麻酔科/集中治療医である。私の愛する靴たちは普段仕事着として着用するスクラブに全く合わない。つまり革靴の出番は、私の日常にほとんど存在しない。それでも暇さえあれば靴のことを考えてしまう私は、今回手術室、ICUといった中央部門で履くべき靴、購入すべき靴について妄想してみた。

中央部門で求められる靴の特性として、1静音性、2帯電防止、3清潔性が挙げられ、それに一般的な靴の機能が加味される。静音性は患者快適性の向上につながる。帯電防止機能は、最近多くなったタッチパネル式医療機器の誤作動防止につながる。感染防御や汚染時に洗浄できることも重要だ。この3つの要素は必ず満たすべき項目かと考えるが、ほか歩きやすさ、

痛みのなさ、通気性、デザイン性といった要素をすべて満たす靴があればそれが求めるべき靴である。

革底は帯電防止作用を持つが、歩くとコツコツうるさい(好きなんです)と思われる。ゴムは静かに歩けるものもあるが、放電性に欠ける。近年はElectro-Static Discharge (ESD): 静電気放電機能を持つ靴が市販されており、ゴム底にESD機能がついた靴がおそらく望ましいものかと思われる。インターネットで検索すれば、ESD機能付きの靴は数多検索できるが、前述の三要素をクリアした上で、スクラブに合う、履き心地がよく、蒸れずに、デザイン性に優れた靴を探すのはなかなか困難である。デザイン性に優れた靴を履くことで「モチモチ度50% up」、硬膜外穿刺スピード3倍、になるわけでもなさそうなので、無難な安全サンダルを履き続けることになりそうだ。

わが娘の帝王切開の麻酔を担当して

梅垣麻酔科クリニック **梅垣 裕**

平成最後の年の瀬を前に、40数年の麻酔科医人生の中で一番思い出に残る麻酔を担当した。それが、わが娘の帝王切開の麻酔である。漸く念願が叶い、貴重児、高齢初産そしてベビーも大きいということで、通院していた産院から当初より帝王切開が示唆されていた。妊娠30週に入り里帰り出産のため長崎より大阪に戻り、自宅からもほど近い私が麻酔を担当している産科診療所を受診した。保険診療による出張麻酔で開業して以来、10年程前よりこの分娩施設から帝王切開の麻酔を依頼され、年間150件前後の帝王切開の麻酔を一人で担当している。理事長はアメリカでの診療経験が豊富で、院長は関西の大学の元准教授という布陣にて、安心して娘の分娩もお願いできると思ってお任せした。やはり出産は帝王切開が最も安全ということであり、私も腹を括って娘の麻酔を担当することにした。早産傾向もあり、入院の上何とか予定より1週早く37週0日で硬膜外麻酔により帝王切開を行い、無事に3146gの男児が生まれた。母児ともに元気で、私にとり3人目の孫でもあり、生涯の宝物を得る日となった。

以前の麻酔科学会の調査によると、学会の認定施設で帝王切開の麻酔を硬膜外麻酔で行っている施設はほぼ皆無であったように思う。しかし私は、ペインクリニックの大御所であった故兵頭正義教授の下で指導を受け、昭和50年代より帝王切開の麻酔の殆どは硬膜外麻酔で行ってきた。開業後も同じである。局所麻酔薬はメイロンを加えて効果発現を各段に早め、フェンタニルの硬膜外投与で不快感を軽快させる等の工夫により、安全に快適に、しかも術後2時間余りで離床も可能であり、娘からの不満もなく安堵の胸を撫で下ろした。お蔭で平成最後の年末年始を、生涯の思い出として胸に刻むことが出来、これも麻酔科開業により得られたものと感謝の念に堪えない。時代は昭和から平成、令和と移り変わっても、良いのか悪いのか、昭和からの私の麻酔方法は変わらない。

麻酔科という選択 - 過去から未来へ -

愛知医科大学病院麻酔科 **石川 真美**

O大学の学生時代、わたしの麻酔科の第一印象は無機質な手術室と教授にいただいた美味しいケーキである。学生時代の病院実習では手術室にいくのが一番乗り気でなかった。麻酔科はメリットデメリットを考えると関心のわいた科であったが、窓のほとんどない無機質な空間に閉じ込められる感覚がどうも苦手であった。当然麻酔科は進路候補として考えていなかった。

初期研修ではA病院に勤務した。周囲が非常に優秀であり、特に救急外来や内科は既に何歩も遅れてのスタートであったと感じていた。そうした思いが学びの足かせになっていた中で麻酔科は前向きに向き合える科であった。もちろん麻酔科において内科的知識などもおおいに必要であるが、スタートラインが同じように感じた。右も左もわからない研修医に、導入終わり次第維持を任される環境がわたしにはよかった。わからないことをわからない、できないことをできないとすぐに上級医に伝えないと手術室の進行の遅れになり、患者の命の危機になる。すぐに電話をすれば駆けつけてくれフィードバックしてもらえ。当たり前であるかもしれないが、当たり前のことが当たり前でできるということが嬉しかった。気づけば麻酔科は気になる存在になっていた。

当時は他にもすすみたい診療科があった。皮膚科、形成外科、美容外科、眼科、精神科などである。研修病院で定められた締め切りを過ぎてもお進路を決めることができなかつた。決まらないからこそ選ぶ進路にしよう。先に述べた科のすべてにおいて、転科したいと考えたとき、麻酔科である

程度勤務したという経験は役立つであろうと思った。比較的はやめに一人前になることができ、仕事を中断する期間があっても意志や環境がととのえばまた働くことができる。離島や田舎で勤務したくなった場合でも、全身管理をしてきた習慣があれば、不足する知識は後で習得することも高すぎるハードルとはならないかもしれない。女性医師が医師としてなんらかのかたちで天寿を全うすることができる場所かもしれない。ここに述べたばかりのことではないが、これらは麻酔科へすすむ理由となった。

麻酔科医3年目となり、また考えることも増えてきている。医師として、人として、女として、人と比べず、自分の人生を選択しなくてはならないと感じるのだが、これが難しい。今一番の課題である。10年後わたし自身なにをしているのか全く想像がつかない。医師をしているだろうか、麻酔科医をしているだろうか、どこにいるのだろうか、だれがそばにいるのであろうか。想像がつかないからこそ、楽しいのかもしれない。

自分のいのちが幕をとじるとき、がんばった、いい人生であった、そういうように今後の人生を選択し、歩んでいきたいと思う。



麻酔機器・器具故障 不具合情報について

安全委員会委員長 廣田 和美

本学会は、医療の安全性向上のため、麻酔関連機器の故障情報の収集と迅速な警告発信を行っております。2019年3月から6月までに、HPに掲載された注意情報は下記の通りです。

情報は以下のページに随時掲載しておりますので、会員の皆様におかれましては常時ご確認いただきますようお願い申し上げます。また、同様の事象が発生しましたら anzen@anesth.or.jp までご連絡下さい。

<故障情報掲載ページ>

https://anesth.or.jp/users/person/safety_initiatives/heads_up

日本麻酔科学会トップページ➡医療関係者の皆様
➡麻酔機器・器具故障情報、薬剤情報、注意喚起

製品名

単回使用人工鼻用フィルタ/
ベンタエイドFJFJ-200C/200CP/200CPE

事象

人工鼻の患者側のフィルタ一部分に閉塞があり、換気困難を生じた

原因

人工鼻の患者側フィルタ一部分にプラスチック片が残り閉塞しており、酸素換気が行えなかつた

対応

当該製品を自主回収

詳細はメーカー HP をご確認ください。

<http://www.fuji-medical.co.jp/>

【薬剤情報】

アラグリオ顆粒剤分包 1.5g 副作用の発現状況について
中外製薬より、アラグリオ顆粒剤分包 1.5g について副作用の発現状況の報告がありました。

詳細内容は、学会ホームページの

マイページ > 理事会・委員会報告・連絡ニュース一覧 > アラグリオ顆粒剤分包 1.5g 副作用の発現状況について

よりご確認ください。

年会費について

2019年度年会費のお支払いが可能となりました。支払期日は2019年9月30日です。また、2018年度年会費をまだお支払いでない方は、至急お支払ください。会員専用ページ「プロフィール」内、左側メニューボタン「年会費支払詳細・領収書発行」より画面に従ってお手続き下さい。

第66回学術集会、2019年度年次学術集会の領収書について

第66回学術集会、2019年度支部学術集会の領収書は、発行場所が上記とは異なります。

以下手順で発行を何卒、よろしく願いいたします。

発行手順

マイページにログイン→「会員サイトメニュー」→「学術集会事前予約」→発行されたい学会名を選択→「ログイン」→入金されている場合は、「領収書発行」のボタンがトップページに表示されます。

※システム改修を行っております。

改修完了次第、「会員以外の領収書発行」から発行いただけるようになります。

会員 (IC) カード発行について

会員 (IC) カードは、年次学術集会 (毎年5月もしくは6月)・支部学術集会 (毎年9月)に間に合うように発行しております。会員 (IC) カードは年次学術集会、支部学術集会での参加登録 (チェックイン・会期中に1回必須)、単位を取得される講習の入退室に必要です。紛失された方は会員専用ページ「マイページ」内「プロフィール」、左側メニューボタン「カード再発行申請」からお手続きを行ってください。

学術集会で麻酔科領域講習、共通講習受講のため、仮会員カードを臨時で発行される場合には、会場内に設けております、仮カード発行ブースで有料発行のうえ、ご参加ください。会期終了後に返却をお願いいたします。※会期中中に返却された場合、再発行には、再度発行代金をお支払いいただくこととなりますのでご注意ください。

入会について -ご周知下さい-

毎月10日を期日とし、入会申請を受け付けております。入会申請には、①WEB申込及び②書類の提出が必要となっており、①・②どちらも完了している方を対象に入会審査を進めております。審査後、同月15日付けで入会承認結果を申請者にメールで通知いたします。承認された方はメールに記載されたURLから、期日までにクレジット決済で年会費を入金して頂くことになり、入金完了時点で会員となります。

※入会スケジュールは、変更となる場合がございます。詳細につきましては、弊会HP「入退会案内・会員情報更新・会員カードについて」をご確認ください。

※一旦退会後、再度会員になる際も前述の手続きで入会申込を行って下さい。直近の退会時点で未納年会費がある場合、こちらと合わせて入会年度の年会費をお支払い頂き、再入会となります。ただし、専門医等の認定資格は再入会しても復活しません。再度認定医から取得し直していただく必要があります。再入会と新入会の申請ページは異なりますので、ご確認いただいた上でご申請をお願いいたします。

※学術集会の会員として単位付与される一般演題応募、参加登録、事前予約等のシステム利用は、申し込み時点や参加時点で入会の手続き (申請～支払い) を完了された方に限ります。2019年度支部学術集会の単位付与をご希望の方は、2019年8月10日までに、入会申請、及び必要書類のご提出をお願いいたします。学術集会中の入会受付は行っておりません。

編集後記

梅雨の季節になりました。災害なども増えておりますので、お気を付けいただければと思います。さて、新理事長の下、理事、評議員、各種委員会の再編がおこなわれ、新体制での麻酔科学会の運営が開始されました。新理事のみなさんご挨拶では、その意気込みも感じるところです。麻酔科専門医制度でのシーリングや地域偏在、術中特定行為パッケージ研修など、麻酔科医や麻酔科学会の将来を左右する重大な課題も取り扱われています。また、今年より麻酔科認定医、機構専門医、認定指導医の申請の内容や方法が変更されております。何が変わったかなど、その内容もご確認いただければと思います。申請期間が9月2日～10月31日ですので、ご注意ください。広報委員会も新たなメンバーでの始動となりました。多くの重要な事項をお伝えする責務を感じております。広報に関するご意見などありましたら、是非、コメントいただければ幸いです。

(広報委員長 川口 昌彦)



公益社団法人 日本麻酔科学会 NEWS LETTER

2019 Vol.27 no.3
http://www.anesth.or.jp
2019年8月20日発行
©Japanese Society of Anesthesiologists

本誌掲載記事の著作権は全て (公社) 日本麻酔科学会に帰属いたします。
無断複製・転載を禁じます。

◆編集・発行 (公社)日本麻酔科学会 広報委員会

[広報委員長] 川口 昌彦
[広報副委員長] 水野 圭一郎
[広報委員] 讃岐 美智義、渋谷 博美、鈴木 昭広、角倉 弘行
〒650-0047 兵庫県神戸市中央区港島南町1丁目5番2号
神戸キメックセンタービル3階
TEL: (代表) 078-306-5945
(認定関連問合せ専用ダイヤル) 078-335-6078
FAX: 078-306-5946

◆制作

株式会社杏林舎
〒114-0024 東京都北区西ヶ原3-46-10
TEL: 03-3910-4311 FAX: 03-3949-0230

